

シーハットの使用状況を考えた対応を望む

里脇 清隆 議員

Q 本市が誘致したというプロバスケケットボールチームが来年度から参戦することとなる。シーハットの下半期の土日6回を優先的に使用させることで、現状でも取り合いとなっている市内の競技団体の大会枠がなくなってしまう。市はシーハット利用の現状を全く理解していない。プロチームの使用回数をせめて半分に減らす交渉はできないか。

A シーハットおおむらでのホームゲームの開催回数については、6節12試合ということであるが、これは先方の意向であり、本市の状況を説明し、協議の余地はあると思う。この場で何回にするという結論は言えないが、まだ決定ではないので、今後市民の声も聴いて、6回より少なくすることを理解していただけるよう交渉していきたい。

農水産物ブランド化のその後について

村上 秀明 議員

Q 農水産物ブランド化や販路拡大のための「協議会」が設置

され、官民一体となった検討が重ねられてきたと思う。今年の3月議会に市長は、「市がリーダーシップをとって協議会を動かし、補正対応をして、ブランド化に力を入れていく」との答弁であったが、協議経過、結果はどのようになっているのか。

A 協議会については、現在のところまだ開催していない。平成27年1月に各直売所や漁協、JA等の関係機関等による協議会の開催を予定している。また、本年9月に大村市物産振興協会にネットショップ「そらえきおおむら」がオープンしたことから、今後の販路拡大につながる活用方法や、直売所を核とした地域の活性化協議会に対し、地域の特産物や新たな加工品のブランド化に向けた取り組みへの支援を開始した。



教育・文化・スポーツ

教育行政について

朝長 英美 議員

Q 市が保有する明治の大画家「荒木十畝」の絵画の購入点数と購入金額はいくらか。また、同作品を市民に公開しないのか。また、

本市に美術館が必要ではないか。また、市民大学の参加人数は何人で、夜間講座も開催するべきではないか。また、小中学校の登校や大規模校対策として校区割の見直しをできないか。また、黒丸町に新小学校を建設することは考えられないか。

A 荒木十畝の作品については、17点、総額約2,680万円で購入し、同作品の公開については、旧楠本正隆屋敷のイベント時に特別展示という形で実施している。また、市立美術館は必要だと思っている。また、市民大学については、受講生62名であり、夜間講座については、希望があれば検討したい。また、校区割の見直しについては、町内会単位での見直しを検討している。また、黒丸地区に小学校を建設することは、現時点で考えていない。

中学校の完全給食について

水上 享 議員

Q 市長の所信表明の中で、これからの4年間に重点的に取り組むべき施策の一つとして、3年以内を目途に中学校給食センターの建設に着手するところがあるが、中学校給食に係る年間経費、給食費未

納の徴収対策、給食指導の時間を設定するために日課の調整等をどのように考えているか。

A 中学校給食に係る年間の経費については、1億5,000万と試算している。また、徴収対策については、現年度分の給食費を確実に徴収するため、学校現場と密に連携しながら取り組み、さらに、これまで以上に確実な収納方法の研究もしたい。また、日課の調整については、他市の学校の事例を参考にしながら、学校現場とも密に連絡をとり調整する考えである。

芸術文化の奨励・褒賞制度が必要だ

北村 貴寿 議員

Q 本市のスポーツ分野における奨励や褒賞に関する制度はあるが、芸術文化についての制度が確立されていない。芸術文化の分野において基準を設けるのは難しいと思うが、現状の運用では恣意性も否めない。熱心に芸術文化活動をされている市民を交えた審議会をつくるなどして制度・基準を確立し、さらなる芸術文化の振興を図るべきである。

A 芸術文化活動における激励費の制度はないが、芸術文化の